

## 第13回独立行政法人農林漁業信用基金林業信用保証業務運営委員会 議事概要

### 1 日時及び開催方法

- (1) 日時 令和3年9月10日(金) 13時30分～15時20分
- (2) 場所 東京都港区愛宕2-5-1 愛宕グリーンヒルズMORIタワー28階  
独立行政法人農林漁業信用基金 大会議室

### 2 出席者

※新型コロナウイルス感染症に伴う緊急事態宣言下において、東京都が緊急事態措置の実施地域となっていることから、信用基金側出席者以外の運営委員及びオブザーバーはウェブ会議形式での参加であった。

- (1) 運営委員(出資者・学識経験者別 五十音順)  
出資者: 川崎委員、白川委員、高井委員、西垣委員  
学識経験者: 伊藤委員、井上委員、辻村委員、服部委員、水上委員
- (2) 信用基金  
今井理事長、森島副理事長、深水総括理事、宮澤総括理事、小林理事
- (3) オブザーバー(主務省)  
天野林野庁林政部企画課長、小土井財務省大臣官房政策金融課課長補佐

### 3 提出議案

- (1) 報告事項
  - ①令和2年度の業務の実績に関する評価について
  - ②令和2年度の決算について
  - ③農業信用保険業務、林業信用保証業務及び漁業信用保険業務に関する業務方法書の変更について
  - ④将来性評価の導入について
- (2) 情報提供事項
  - ①森林・林業施策について
  - ②令和2年度の林業信用保証業務の概況について
  - ③保証料率等の見直しについて
- (3) その他

### 4 議事経過の概要及びその結果

上記3(1)について信用基金からの説明及び質疑応答がなされた。また、上記3(2)について、林野庁、信用基金及び各運営委員からの情報提供及び意見交換がなされた。

運営委員からの主な質問・意見は、以下のとおり。(◎印は、運営委員会の開催に先立って、運営委員から書面にて提出された質問・意見。カッコ内は、これに対する信用基金の説明。)

#### 【質問・意見等】

- (1) 報告事項
  - ①令和2年度の決算について
    - ◎ 人件費が昨年度より56,704千円マイナスになった要因は何か。  
(令和元年度は、予期せぬ退職金の支払いが発生し、退職給付引当金を全額引き当てることとなり、令和元年度の人件費が増大した。その反動で令和2年度の人件費は大きく減少した。)
  - ②将来性評価の導入について

- ◎ 新規創業者を対象とした将来性評価への取組は大いに評価に値する。技術、ノウハウ、地域社会への貢献度、新規事業への正しく熱い思い等を重視した審査が行われ、新規創業者をより効果的に保証対象に組み込んでいただけることを希望する。  
( 昨年度の引受実績では、一定の技術や資格を有することをきちんと評価して保証応諾した事例があり、事業的なものも見つつ、地域社会への貢献等の思いのある者を支援できるように努めて参りたい。)

- 新分野進出者に対する将来性評価について、全く別の業態の事業者が、既存のノウハウと異なる発想で参入を希望する場合、どのように評価するのか。  
( 指導できる技術者の有無、技術を持った従業員の有無、地域の支援、協力者等との連携状況等を審査する。)

## (2) 情報提供事項

### ①令和2年度の林業信用保証業務の概況について

- ◎ コロナ禍にあった令和2年度の保証引受金額が、前年度比▲7.3%であったことは、むしろ努力された結果と認識。民有林・国有林共に、コロナ下での先行き不安の中、素材生産を抑え、出材を伴わない森林整備等に施業内容を変更しており、令和2年度の国産材素材生産量は前年比▲9.1%となっていることから妥当である。  
( 非常に社会・経済の状況が見極めづらいが、基金として動向を注視しつつ適切な対応に努めて参りたい。)

### ②委員からの情報提供

- 外材不足を受け、商社、メーカーなどが国産材にシフトし、結果として原木価格が上昇した。急激な需要の増加に対し、森林組合系統では増産に努めているが、慢性的な人手不足の中、十分には対応できず、搬出量は伸び悩んでいる。
- 国有林の請負は、前年度よりも受注増で推移。ウッドショックの影響で、各製材工場は原木が不足気味。立木価格も高騰しており、北東北三県は8月頃から合板工場、LVL工場、製材工場等が値上げし、現在も値上がりしている状況である。
- 林業は、労働力や現場の確保の問題もあって増産が難しいが、サプライチェーンの構築による安定供給の実現が必要と考える方が増加しており、進展を期待している。
- 製材や販売と密接な工務店は何とか供給が出来ているが、外材を使用している一部の建築用材や合板等の入手に苦勞しており、施主に対して請負金額の値上げや着工時期をずらすなどの対応を求めている。工務店は今後の外材使用について検討を始めており、木材産業側は、国産材の使用率増加を期待している。
- 林業は非常に息の長いサイクルの産業であり、銀行側では難しい分野との認識が根強い。林業分野の事業承継、創業支援は、銀行にとっても非常に重要な課題で、銀行が貢献することが非常に大事なことと認識している。
- コロナ渦でも、不動産業界はビル等の新たな建設で活性化しており、内装に木材を大量に使う場合もあり、木材に対する需要が非常に増加しているように感じている。

以 上